

FoToZoFlo 応募作品

<1> 作家名、自己紹介、及び経歴

- 作家名 ちわき じゅんいち 地脇 準一
- 自己紹介及び経歴

・1949年生まれ。日本大学農獣医学部獣医学科卒業。1971年から京都府職員として37年間農林水産行政に従事、2008年に京都府を定年退職。その後、公益社団法人京都府畜産振興協会専務理事を経て2013年7月からブログ「ももやま写真工房」を立ち上げ写真家デビュー。

全日本写真連盟会員、20018年3月、京都造形芸術大学通信教育部芸術学部美術科写真コースを69歳で卒業。

写真作品は「1967 深川木場」(<https://youtu.be/6qChKqKlKmA>)や「神話の舞台 KAGURA」(<https://youtu.be/5QdhdpkrdRE>)をスライドショー形式でYouTubeに公開しています。また、2020年9月10日～19日までニコンプラザ大阪 Nikon Square で初の個展（「神話の舞台 KAGURA」）を開催しました。

評価を受けた写真作品は全日本写真連盟京都府本部2019年2月例会（新春舞妓撮影会）の審査で「紙風船」が推薦（1席）に選ばれました。また、第17回京都現代写真作家展で入選し、京都文化博物館で開催された京都写真ビエンナーレ2019に作品「スーパームーンの夜」が展示されました。



左「1967 深川木場」

右「神話の舞台 KAGURA」



上 新春舞妓撮影会「紙風船」



上 京都写真ビエンナーレ 2019「スーパームーンの夜」

推薦に地協さん

府本部2月例会

全日写真連だより

全日本写真連盟府本部2月例会は、上賀茂神社(北区)で開催した新春舞妓撮影会の作品を審査し、推薦に地協準一さん(伏見区)の「紙風船」Ⅱ写真Ⅱを選んだ。特選以下は次のみなさん。

【特選】「ふうせん遊び」長谷川種夫(南区)▽「ひとりあそび」林和生(伏見区)
【準特選】「舞う」田村進(大阪府枚方市)▽「お散歩」杉本実(宇治市)▽「無心に」上村直美



【講評】芸妓さんのキリッとした目、指先のしぐさ、風船遊びの良い瞬間を捉えています。紙風船にも表情があるかのように引き締まった作品です。(関西本部委員 安原裕)

(伏見区)▽「夢中」三浦秀夫(宇治市)
【入選】水谷佳重、前川勝彦(右京区)▽飛騨喜久雄、増田テル子(城陽市)正延靖三(大阪府枚方市)▽武内弘幸(中京区)江草克子(大阪府茨木市)▽植田信子(滋賀県草津市)▽能勢進(西京区)▽木村陽一(木津川市)

撮影会 2019.01.20 上賀茂神社
コンテスト 2019.02.15 朝日新聞社京都総局
新聞掲載日 2019.04.09 朝日新聞京都版



←
←

〈2〉制作の動機

2004年（平成16年）に京都府船井郡丹波町で発生した高病原性鳥インフルエンザは、25万羽という大規模養鶏場であることや、農場に飛来するカラスからもウイルスが検出されたため、国民の恐怖心をあおり、マスコミの報道合戦も熱を帯びたものとなりました。

農場の経営者は2月26日の午後7時30分に南丹家畜保健衛生所に匿名電話がかかるまで約10日間病気の発生を通報しなかったばかりか、病気の痕跡を消すために兵庫県や愛知県の実鳥処理場へすべての鶏の出荷を画策していました。そして、感染鶏の一部がすでに出荷された兵庫県で鳥インフルエンザが発生するという事態を招きました。

家畜伝染病予防法の規定で、発生農場から出荷された卵はすべて回収され、農場から半径30km圏内の養鶏場に対しても約50日間の卵や鶏の出荷制限がかかり経済的被害も甚大でした。

また、発生農場に生存していた22万羽の鶏はすべて殺処分の対象となり近隣の山に埋められました。

鶏の殺処分や埋却処理は途中から近隣自治体や国及び各府県からの応援が得られ、日本で初めて自衛隊の出動を要請するなど、約17,000名の人々の力で3月17日にようやく処理が終了しました。

〈3〉 組写真または映像のテーマの説明

今回発表する 10 枚の写真は 2014 年 2 月 26 日に撮影した養鶏場跡地の風景です。匿名電話があった日からちょうど 10 年後になります。

私は発生当時、現場を管轄する家畜保健衛生所の所長を務め、その 2 か月後から定年退職まで 4 年間、京都府畜産課長として事件の後始末に追われました。

被害を受けた農家の損失補填、膨大な量の鶏糞の持ち出しと焼却処理、3 年間の発掘禁止期間終了後の埋却鶏の掘り起こしと焼却処理、京都府は埋却地を元の山に戻すことを地元と約束していました。

世間を騒がせた大事件であったため、経営の再開は許されず、養鶏場の建物と敷地は町が管理することとなり、10 年後も発生当時の姿でそのまま残されていました。しかし、発生から 17 年が経過した今日では一部を除きすべての施設は撤去され更地になっています。

写真が持つ最大の力は記録性にあると思います。また、記録された写真は人々の記憶を呼び覚まします。

私の脳裏から京都で発生した鳥インフルエンザ事件の記憶が消えることはありません。この事件に関わった多くの人も同じだと思います。これらの写真を事件に関係したすべての人に捧げます。

タイトル

10年後の現場（鳥インフルエンザの発生）



正面入り口方向から望む鶏舎群



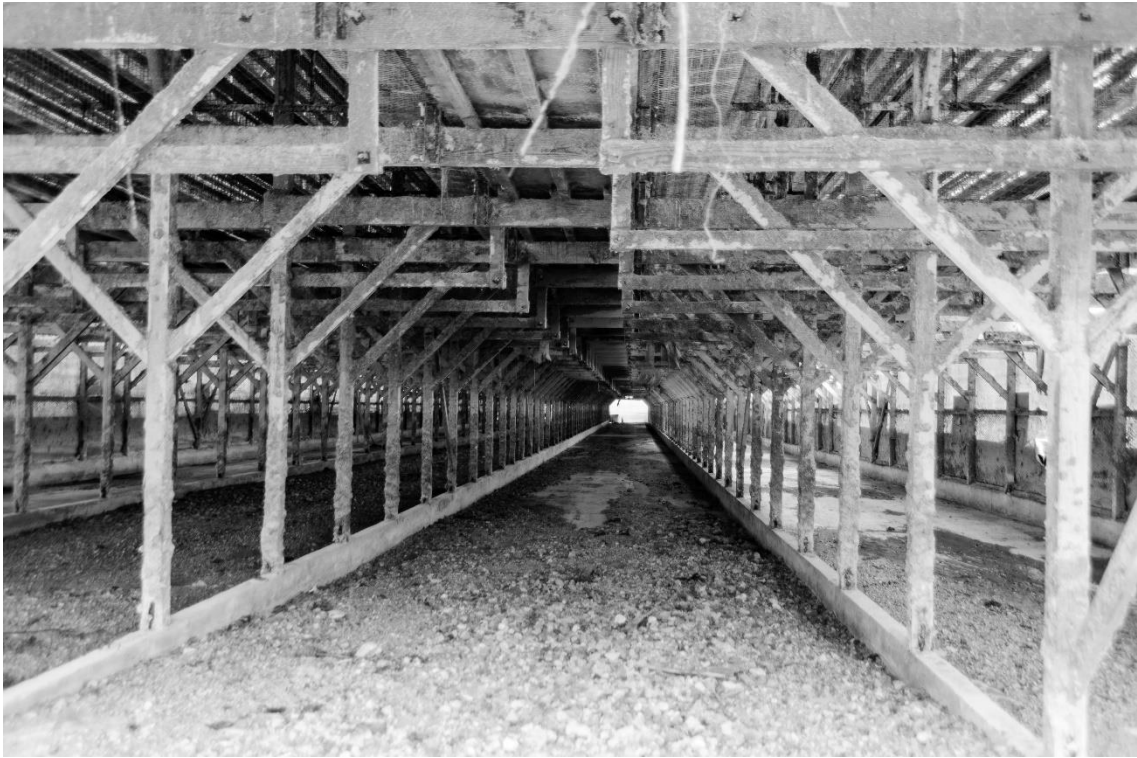
埋却跡地から鶏舎群を望む



1 鶏舎に採卵鶏が 25,000 羽収容されていた



野鳥の侵入を防止する金網と鶏舎内の温度を調節するカーテン



鶏舎下部に鶏糞が溜まる高床式鶏舎





堆肥舎跡地



飼料タンク群



事務所跡



養鶏場敷地内を町道から撮影